

平成30年度 NIE実践報告（2年目の取組）

鹿児島市立武岡中学校

1 はじめに

本校はNIE実践校指定2年目を終了しようとしているが、1年目は新聞に対する興味・関心を高める活動を中心に取り組み、今年度は実践を進める上で特定の教科にとらわれず、全ての教育活動での新聞活用に努めてきた。また、他校の取組や各種研修会で学んだことを積極的に取入れ、思考力・表現力の向上をめざしている。

2 本年度の活動の概略

(1) 活動のねらい

- ① 身近な情報源としての新聞に興味を持ち、新聞に親しむ習慣をつける。
- ② 新聞記事を集めたり、記事に関するスピーチを行ったりすることにより、社会に目を向け、自分なりの考えを持つ力を育てる。
- ③ 新聞の教材化を図り、授業の中で活用することで、読み取った資料をもとに、自分の見方・考え方を広げたり、深めたりする力を育てる。

(2) 具体的な取組計画

- ① 階段にNIEコーナーを新設
各クラスのNIE係（副総務）にテーマに沿った新聞をスクラップしてもらう。
- ② 各階のホールに新聞閲覧コーナーを新設
いつでも手に取れるところに新聞を置くことによって、新聞を身近に見られるようにする。また、新聞は各学年のNIE係がフロアまで持って上がり、そこからは各学級のNIE係が閲覧コーナーに置いたり、古い新聞を下げたりという管理を行う。
- ③ 帰りの会の1分間スピーチの題材で新聞記事を取り上げる。
1分間スピーチとして、各自が興味を持った新聞記事を紹介し、それについてどのような感想を持ったかを紹介する。
- ④ 月1回、朝読書の時間を利用し「南風録」読みを行う。
月に1回（基本的に第3金曜日の朝読書時）NIE係が用意した南風録を読み、ワークシートに記入する。5月から実施予定。
- ⑤ 国語科による、南日本新聞「若い目」への投稿
- ⑥ 各教科による授業におけるNIE活動
特に、国語科、社会科、技術科の研究授業をNIE活動を取り入れた形式で行い、授業研究を全職員で行う。

3 活動組織について

(1) 校務分掌への位置づけ

全校体勢での取組を推進し活性化させるために、各学年から選出したNIE担当者を校務分掌に明記し、特定の教科にとらわれず全ての教育活動において、全職員・全生徒が意欲的にNIEに取り組む姿勢を明らかにした。

(2) 生徒会組織への位置づけ

生徒会活動や学級活動等でN I Eの取組を推進するために、学級生徒会組織の中の副総務をN I E係として位置づけ、「N I Eコーナー」を担当した。

4 各教科の取組の実際

(1) 社会科の取組

① 授業の既習内容とリンクする新聞記事を探し、スクラップする。

社会科公民的分野では、日本国憲法や政治の仕組みなど実際の社会の出来事とリンクする内容を学習することが多い。そのため、単元学習後に、新聞から既習内容と関連する内容の記事を探して広幅用紙にスクラップし、授業で習った内容が実際の世の中ではどのような出来事とリンクするのかをまとめさせた。



①新聞記事から既習内容とリンクする記事を探す。

探し出す過程で、新聞記事の内容のどのあたりが既習内容と関連するのかを皆で話し合う事により、内容の理解が深まった。



②内容をジャンルごとに整理し、広幅用紙に貼っていく。

スクラップした記事を、内容のジャンルごとに整理し見出しをつけながら貼っていく整理しながら貼ることにより、既習内容を系統立てて理解することにつながった。



③できあがった用紙はホールに掲示する。

クラスごとにホールに掲示し、自分たちと共通したり逆に違う観点で作られたまとめを見ることにより、幅広い視点を持って物事を見ることにもつながった。

② 新聞記事を読み比べる授業（研究授業）

公民的分野で扱う「メディアリテラシー」のあり方を、実際に新聞記事を読み比べることから考える研究授業を行った。

「メディアリテラシー」自体は地理的分野や技術・家庭科など様々な教科、単元で扱い、生徒も内容は理解している。今回は「憲法改正」に関する実際の新聞記事を数社比較することにより、論調の違いや扱うデータの違いなど、新聞を制作している人の意図が新聞には反映されていることを気づく事ができ、「メディアリテラシー」の重要性を体感することができる授業となった。



① 「改憲問題」に関する新聞記事を読み比べた。（読み比べをする際には、どの新聞社の記事であるかが分からないように、ワークシートに転載して使用した。）

どのような違いが見られるか、またそのような違いはなぜ生まれるのかを班で協力しながら考えた。



② その後、班ごとに意見を発表した。

同じ問題を扱った記事でも制作した人が違えば違いが出るため、鵜呑みにせず、メディアリテラシーをもつことが重要であると気づくことができた。

(2) 道徳での取組

学級では、昨年度より帰りの会の1分間スピーチを新聞記事を利用して行っている。その活動により、新聞記事を読むことに慣れてきたため、今年度は道徳の授業でも使用した。班ごとに新聞を数日分配り、その中から「許せないと感じる記事」や「心温まる記事」など、教師が示したテーマに沿った記事を選び、班ごとに発表した。発表した後は学級で更の一つの記事に絞り込んで話し合いを深めた。

教科書や副読本と違い、実際の世の中で起こっている事を題材にしているため、より生活に密接しており、「自分の身にもし起こったら」「自分の身の回りでこのような事があったらどうするか」など、自分の身に引き寄せてより深く考えることができた。



① 班ごとにその日のテーマに沿った新聞記事を探し出す作業。

「許せないと感じる記事」の回では、新幹線殺傷事件や障がいを持つ方への差別問題などの社会問題もあれば、人気マンガの作者のコメントが差別的だったのではないかなど多岐にわたる問題があげられた。



② 班ごとの記事を発表し、その中から学級で最もテーマに沿った記事を選び、話し合いを深めた。

自分たちとは違う観点で選ばれた記事や、誰もが知っていて納得する記事など、他の人達がどのような価値観をもっているのかを知ることができた。

(3) 技術科の取組（情報モラルの授業）

私たちの身のまわりはたくさんの情報が飛び交っている。そのような中で情報を正しく取捨選択していかなければならないが、SNS などに関わる人間関係のトラブルや間違った情報の発信、不適切画像の投稿などが発生している。

そこで生活における情報を読み解く力の育成や、情報の伝達方法・利用方法の理解、情報を適切に選択できる判断力が必要であると考え、8・6水害について、1年後から25年後までの新聞記事を読み比べ、報道の重点がどのように推移してきたかを考え、記事に込められた思いを小グループで読み解いていく。また、SNS に関するトラブルを考え、情報を伝える相手を意識しながら、適切に情報を活用するための知識と技能を身に付け、これからの望ましい情報社会の創造に参画する態度を養わせることを目的とした。

新聞をどの場面で、どのように活用するのかについて課題が残った授業であったが、新聞というツールと向き合う生徒の様子はとても生き生きとしていた。

5 新聞にふれ、記事を読む活動（毎週金曜日の朝活動で実施）

(1) 朝活動で新聞を読む

新聞の定期購読をしている家庭が3割程度という現状から、「新聞を読む」活動を取り入れることで、新聞の持つ情報ツールとしての良さに気付かせ、文章を読む活動を通して長文を最後まで読む力を身につけさせるとともに、文章表現や語彙力、漢字力の向上や知識の深まりを意図した活動である。



(2) 各学年「NIEコーナー」の設置



各学級の副総務が「NIE係」として、テーマに沿った新聞をスクラップして、「今週の注目記事」としてコメントを交えながら新聞記事を積極的に掲示している。生徒の視点で記事を選択するため、思いもかけない視点から考察を加えることもあり、非常に興味深い掲示物となっている。通行途中に足を止めて記事を読む生徒の姿が多数見られる。

(3) 新聞記事を元にした1分間スピーチの実践

各学級で行っている1分間スピーチを、新聞記事を元にして「どんな出来事があって、それに対してどう思ったか」という内容で行った。記事を紹介しながら、記事に対する自分の考えをコメントすることで、自ら考え自分の言葉で表現することが期待でき、今後も続けていく重要な活動の一つとなっている。



(4) その他の活動

- ① 2年生を対象にした「読むのび教室」を実施し、新聞の読み方や読む上でのポイント、新聞の活用法など学び、学習新聞や広報紙づくりに生かしている。
- ② 「若い目」への積極的な投稿を行う。今年度も全学年を通じて定期的に投稿することができた。（5名掲載）

6 成果と課題

(1) 成果

- ① 「全校態勢での取組」を目指すため校務分掌に明記したこと、また生徒会活動を継続するための組織作りができたことは大変大きな成果である。
- ② 新聞を読む活動を通して、新聞に親しむ機会が増え、様々な場面で新聞を活用しても抵抗なく取り入れることができた。
- ③ 社会・国語・技術の授業を通じてNIEについて研修を実施した。手探りながらも様々な活動例を示しながら授業改善に取り組めた

(2) 課題

- ① 新聞を読む活動を通して、読むことに抵抗はなくなりつつあるが、思考力や表現力を高めるための活動までに至っていない。読んだ後の感想や要旨をまとめる活動を取り入れる必要がある
- ② 初年度に比べ複数の職員がNIEに取り組んでいるものの、推進委員に頼る場面がおおい。より協力体制を高め、教育計画の重点事項として位置付ける必要がある。